

NEWS LETTER

SEIGAKUIN NEWSLETTER

& Seig

No.

272

Dec.2018

特集

聖学院のクリスマス



CONTENTS

01

特集：聖学院のクリスマス
[聖学院大学]
[聖学院みどり幼稚園]

05

特集：聖学院のクリスマス
[女子聖学院中学校・高等学校]
[聖学院中学校・高等学校]

07

特集：聖学院のクリスマス
[聖学院小学校]
[聖学院幼稚園]

09

在校生の活躍
卒業生の活躍

11

Seig NEWS

14

Our Mission

15

聖学院歴史探訪



聖学院大学

聖学院
みどり幼稚園

地域の風物詩の一つとして定着し
ツリーもバザーもコンサートも大人気。
近隣の方の笑顔が集まる点火祭です。

●特集

聖学院のクリスマス

待降節（クリスマスの準備期間）の始まりとして行われる点火式・点火祭。

上尾と駒込はそれぞれ幼小と中高、合同で行っています。

そこには、どの点火式・点火祭も「どんな暗闇にも光はある。そのことを思い出して欲しい」という共通の願いがありました。



まだ薄明かりが残る黄昏の空の下、聖学院大学と聖学院みどり幼稚園
合同の点火祭は厳かな鐘の音と共に始まりました。このイベントには、
大学生、園児だけではなく、近隣の方たちも毎年多数参加しています。
ツリーを中心とした会場は、開演時には幾重にも人垣ができていて大
変な混雑ぶりでした。その多くは子どもと一緒に家族連れで、地域の
方達にとっても楽しいイベントになっていることを物語っています。
さいたま上尾キャンパスの点火祭では、天使役の学生2人が、燃え盛
る本物の松明でツリーに点火します。屋外ならではの演出で、天使が
夜空に松明を掲げると、ツリーに明かりが一斉に灯ります。点火祭の
テーマでもあり、チャプレンである柳田先生の「光は闇の中に」という

お話を象徴する瞬間です。静寂の中で光輝くツリーは参加者一人ひと
りの喜びに満ちた表情を優しく照らしていました。特に子どもたちに
っては、外で見る巨大なツリー、本物の松明、そして見上げた先に見
える夜空。いつまでも記憶に残る思い出になることでしょう。
点火祭の後は聖学院教会が主催するバザーと女性コーラス「グリュー
ン」によるクリスマスコンサートが行われました。19時過ぎまで続いた
イベントは最後までたくさんの参加者で賑わいました。柳田先生は
「大学と地域を結ぶ大事な行事。これからもたくさんの方に参加して
欲しい」とおっしゃいます。会場ではたくさんの笑顔を見ることがで
き、地域貢献が目に見える形として実現していました。



(上) 讃美歌「アドベントクランツに」を歌う園児たち。(下左) 聖学院大学復興支援ボランティアチームSAVEと一緒に祈りを捧げました。(下右) 保護者サークルによる讃美歌「すばらしいホーリーナイト」の合唱。



(上) 来場者で賑わうバザー会場、雑貨コーナー前。(下左) 大人気商品の一つ、クッキー。30分もたたずに完売しました。(下右) くるみで飾られたおしゃれなキャンドル。

聖学院みどり幼稚園 園児の歌声

点火祭の最初のプログラムに組まれていたのが、聖学院みどり幼稚園の園児たちによる讃美歌「アドベントクランツに」です。司会の方からの紹介が終わると、園児たちのかわいい歌声が響き、会場は温かい雰囲気になりました。聖学院みどり幼稚園から点火祭に参加したのは年長の園児たち。点火祭が始まる前、会場の一角で、緊張と興奮の入り混じった表情で整列していましたが、出番になると元気な声で歌い、見事にトップバッターを務めました。暗闇に照らし出される園児たちの横顔に、会場からも拍手が湧きました。お祈りの時も一番大きな声で「アーメン」と言っていたのは園児たち。いつもと違う環境でも、元気に歌いお祈りできるのは日頃の先生方のご指導の賜物だと思います。とはいえこの日、園児たちより緊張していたのはその先生方かもしれません。

点火祭の最後には、聖学院みどり幼稚園の保護者サークル、あすなる会による「すばらしいホーリーナイト」の讃美歌合唱も行われました。美しい歌声が点火祭の夜空に響き渡りました。

聖学院教会主催のバザー

バザーの会場となったのは緑聖ホール。点火祭が終わって10分後のスタートにも関わらず、開場時、扉の前には長蛇の列。お目当はパウンドケーキです。主催の方が、列に並んでいる人に、「1人1本をお願いします」と呼びかける必要があるくらい大人気で、当然即完売でした。他にも人気商品が多く、人がひっきりなしに出入りしていて、会場は活気に満ち溢れていました。バザー目当てで点火祭にきている方も多いのでは?と思うほどです。また会場の後ろ半分がカフェスペースになっていて、麦茶、紅茶、コーヒーが無料で提供されており、点火祭の後一息つく場所としても活用されていました。もちろん買った食べ物をそこで食べることもできます。

バザーで販売されていた商品は、マドレーヌ、クッキー、コーンチャウダー、クリスマスの飾りなどをはじめとした様々な雑貨などです。お菓子類とコーンチャウダーはパウンドケーキに次ぐ人気で、30分ほどでやはり完売していました。



柳田 洋夫

聖学院大学・人文学部 チャプレン

八木重吉という詩人がいました。奥さんと娘さんが女子聖学院で学んだ、聖学院に関係の深い人でもありました。病と貧しさに苦しめられながらも、多くの優れた作品を遺しましたが、その中に「買ぬく 光」と題された次のような作品があります。

「はじめに ひかりがありました／ひかりは 哀しかったのです／ひかりは／ありと あらゆるものを／つらぬいて ながれました／あらゆるものに 息《いき》を あたへました／にんげんのころも／ひかりのなかに うまれました／いつまでも いつまでも／かなしかれと 祝福《いわわ》れながら」
この詩は、ヨハネによる福音書第1章5節の「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」というみ言葉に基づいたものと思われます。ここで、「ひかりは哀しかったのです」と言われているのが印象的です。光としてこの世においてになったイエスさまは「哀しかった」というのです。

なぜでしょうか。それは、光であるイエスさまは、まさに暗闇の中にお生まれになったお方だからです。暗闇の外で、暗闇を見下ろすかのようにひとり栄光に輝いておられたのではなくて、まことの救い主を理解できず、最後は十字架へと追いやってしまうほどの闇に覆われたこの世の真っ只中においてになったゆえに、イエスさまは哀しかったのだ、とこの詩人は歌っています。

イエス・キリストは、この世に生まれたときから十字架に至るまで、哀しみと苦しみと痛みを担う歩みを買われました。そして今でも、私たちのそばにいて、まことの慰めへと、また、まことのいのちへと招いてくださっています。だから私たちも、その招きに応えるとき、たとえ闇と哀しみの中にあるようなときでも、というよりは、そのようなときこそ、神さまの祝福と慰めの中に置かれる者とされます。

クリスマスの出来事とは、そのような、私たちが思ってもみなかったかたちでなされる救いのみ業の始まりでもあります。そのことを心に刻みつつ、闇の中に輝くまことの光を、ともに感謝と賛美の心をもって仰ぎ見たいと思います。

その他のプログラム

- 聖書朗読(ヨハネによる福音書1章1～5節)
- 聖学院大学聖歌隊&聖学院教会有志 讃美歌
- 讃美歌(ぎよしこのよる)
- 聖学院大学 ハンドベル演奏



(上)会場全景。開演とともにチャペルが間接照明とトップライトに変わり、幻想的な雰囲気になりました。(下左)指揮者の藤田明先生。(下右)世界で活躍する「グリーン」のみなさん。

クリスマスコンサート

チャペルでは、18時30分から指揮者の藤田明先生が率いる女声コーラス「グリーン」のクリスマスコンサートが行われました。「グリーン」は1992年に、当時聖学院大学児童学科で教鞭をとられていた藤田先生が行った公開講座をきっかけに、受講生で発足したコーラスグループです。ウィーンのシュテファン大聖堂でミサ曲を演奏したり、アドヴェント国際合唱祭に参加するなど国際的に活躍し、聖学院の点火祭でも毎年コンサートを行っています。点火祭に参加した方々に加え、近隣の音楽好きの人たちが集まってきている印象でした。席が7割くらい埋まっている様子から、そんな地域の方たちにとって楽しみなコンサートになっていることが伺えます。

2階にいるコーラス隊が歌い出すと、円形の壁に沿って美しい歌声が回ってきます。さすが世界で活躍する歌声です。クリスマスの定番ソングも交えながら構成されたコンサートは最後まで観客を魅了していました。全曲演奏し終わると会場は割れんばかりの拍手に包まれました。



女子聖学院
中学校・高等学校
聖学院
中学校・高等学校

**隣同士の中学校・高等学校が合同開催。
年に一度、同年代の生徒が集い
同じ神さまと一緒に礼拝できる貴重な体験**

駒込の中学校・高等学校の点火式は、聖学院中学校・高等学校（以下聖学院中高）と女子聖学院中学校・高等学校（以下女子聖学院中高）が合同で行います。毎年交互にそれぞれのチャペルが会場になり、今年は聖学院中高の講堂で行われました。聖学院中高の中学1年生は全員参加でそれ以外の学年は自由参加。合計約320名の生徒が参加しました。

点火式は待降節の始まりを告げる式典で、12月25日（火）の降誕4週間ほど前からクリスマスに向けて心備えをしていくためのものです。大学や幼稚園・小学校の点火式、点火祭よりもスケジュールが少し早いのは定期試験がある中学・高等学校ならではの理由です。

聖学院中高と女子聖学院中高の生徒が合同で開催するイベントには他に記念祭（文化祭）があります。壁一枚を隔てたお互いの文化祭会

●クリスマスツリー点火式:11月13日（火）

●点灯期間:

聖学院中学校・高等学校 11月13日（火）～1月6日（日）

女子聖学院中学校・高等学校 11月13日（火）～1月6日（日）

場を普段閉じられている門から行き来することができますが一緒に何かを行うわけではありません。点火式は両方の生徒が一緒に行く（礼拝をする）貴重なイベントです。「駒込キャンパスの若い人たちはみんな一緒にイエスさまの御降誕を待つ準備を始めましょう」という位置付けでもあります。これは生徒たちにとって、隣の学校の同じ年代の人たちが同じ神さまを礼拝していることを目で見えて体験できる貴重な機会です。各校の礼拝の形式や捉え方にはそれぞれの特徴を活かし、礼拝の中で合唱や演奏を献げます。

クリスマスイルミネーションのきらびやかさだけでなく、暗闇の中にとずれる光の意味について聖書の言葉に聞きながら、男子生徒も女子生徒も共にクリスマスへの心備えをする大切な時を過ごします。



木戸 健一

女子聖学院中学校・高等学校 チャプレン

神さまは羊飼いたちに救い主がお生まれになったとお知らせになりました。それは夜の闇に覆われた時でした。突然「主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らし」出します。その圧倒的な光に羊飼いたちは恐れをなしてしまいます。天使は羊飼いたちに告げます。今日ダビデの生れ故郷であるベツレヘムに救い主がお生まれになった。しかも救い主がお生まれになったというのに宿屋には泊まる場所がなく、家畜に餌を与えるのに用いる飼料桶の中に寝かされていると言うのです。羊飼いたちが天使の知らせを驚いて聞いていると、今度は「突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して」言います。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」と。この賛美の声に、羊飼いたちの恐れと驚きは喜びと感謝にかわりました。

天使が光と共に現れたのは、イエスさまがお生まれになったところではありません。イエスさまがお生まれになったのは、ベツレヘムの町の家畜が飼われている場所です。ローマ皇帝によって人口調査が行われ、一度に多くの人移動しなければなりません。そこで子どもが生まれるマリアとヨセフには、宿屋の中に居場所がなくなってしまったのです。この時ベツレヘムは深い闇に覆われていました。それは人間が作り出した闇でした。そして救い主がお生まれになったというのに、ベツレヘムには天使がやって来て光がもたらされることはありませんでした。それはイエスさまが、ご自分で闇を引き受けてくださったからです。罪という人間の作り出した闇を引き受けてくださったからです。イエスさまが人間の罪を引き受けてくださったので、この世界に光がもたらされました。律法を守れないために人々から蔑まれ、人間が作り出した深い闇に覆われていた羊飼いたちに真っ先に光がもたらされました。人間の作り出した闇に神さまが光をもたらしただけで、それがクリスマスの出来事なのです。



(上) 聖学院中高と女子聖学院中高の生徒が共に讃美歌を歌いました。(下) 今年にはクリスマスツリーがブルーのLEDで装飾され、厳かな雰囲気を出していました。



(上) 女子聖学院中高のコーラス部による合唱。(下右) 聖学院中高の音楽部による合唱と演奏。(下左) 噴水の奥では聖学院中高のブラスバンドによる演奏が行われました。

その他のプログラム

- 讃美歌(きよこのよる)
- 聖書朗読(ルカによる福音書2章1~14節)
- 聖学院中学校・高等学校 音楽部合唱&演奏
- 女子聖学院中学校・高等学校 コーラス部合唱
- 聖学院中学校・高等学校 ブラスバンド演奏(屋外)



(左)聖学院小学校ハンドベルクラブによる演奏。(右上)聖学院小学校聖歌隊による合唱。(右下)祈禱に合わせてお祈りを捧げる園児たち。

聖学院小学校

聖学院幼稚園

チャプレンの先生のお話



中村 謙一

聖学院小学校・聖学院幼稚園 チャプレン

2018年度のクリスマスの準備として、私たちは今宵、幼少合同の点火式を守っています。天使ガブリエルは次のようにマリアに告げました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。」ここでマリアが神様からいただいた「恵み」には、救い主イエス様の命が宿り生まれることだけでなく、やがて十字架の道を歩み、全ての人の罪を赦し救うために命を献げ復活されるイエス様を育てる御業も含まれていました。

天使ガブリエルは、マリアに告げました。「あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。」このお告げは、700年以上も前に預言されていたイザヤ書7章14節のみ言葉が実現し、生まれる救い主メシアは、インマヌエル（神は我々と共におられる）と呼ばれ、神が人となるお方であることを示していました。真の神・真の人となるこのお方をイエスと名付けよとマリアは命じられました。まだ結婚もしていない自分に子が宿るということが、マリアには理解できませんでした。しかし天使は答えました。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。神にできないことは何一つない。」ここで、天使ガブリエルは、聖霊という神様の力によって、マリアに神の子イエス様が宿り誕生することを告げたのでした。マリアは、「わたしは主のはしためです。お言葉通り、この身になりますように。」と答え祈ることができました。マリアは聖書のみ言葉が自分の人生に起こりますようにと願いました。イエス様も、聖書のみ言葉が人生で実現することを信じて祈り、十字架と復活の道を歩まれました。そして神様の救いの恵みと祝福が世界中の人々に与えられました。私たちも天使のごとく、クリスマスと新年に向けて、祈りつつ神様と隣人に仕えて参りましょう。

子どもたちの魔法が、 クリスマスツリーに明かりを灯す いつまでも心に残る点火式

●聖学院小学校・聖学院幼稚園

点灯式:11月22日(木)／点灯期間:11月22日(木)~1月6日(日)

同じ敷地に建つ聖学院小学校と聖学院幼稚園は、一緒にクリスマスツリー点火式を行います。園児、児童にとってはちょっと遅い夕方4時30分に始まるので、式の後、安全に帰れるよう保護者同伴での参加になります。今年の参加人数は500人弱。会場となった小学校のチャペルは興奮気味な子どもたちとその保護者で一杯になりました。

聖学院小学校ハンドベルクラブの演奏、讃美歌、聖書朗読、聖学院小学校聖歌隊の合唱など、子どもたちがこの日のために練習してきた様々なプログラムがありますが、その中でもっとも印象的なのはツリーへの点火です。その役割を担うのは幼稚園年長の園児たち。いったん照明が落ちて薄暗くなった会場で、園児たちが一斉にペンライトをツリーに掲げ、みんなで「点火!」と唱えます。すると魔法のようにツリーに明かりが広がり、暗闇を照らします。この演出には保護者からも感嘆の声があがりました。

「幼児期・学童期の神秘的な体験は、大人になっても心に残るすごく大切なものだと思います。そういう体験を一人でも多くの子どもたちにしてほしい」。点火式の司会を務められた相浦先生はそうおっしゃいます。校庭にはもう一つのクリスマスツリーが設置されていて、点火式が終わるとそちらにも明かりが灯り、様々なデコレーションと共に園児、児童たちを迎えます。ツリーの前では毎年恒例、先生のギターでの讃美歌の生演奏が行われ、児童・園児たちが帰宅前に輪をなして元気に歌っていました。終始楽しそうにしている様子を見るにつけ、子どもたちが特別な夜の真っ只中にいるのがよくわかります。クリスマスの喜びがこの場所から街に広がっていくことを祈りつつ、点灯期間、ツリーが輝き続けます。



(左)メインイベントの点火式。聖学院幼稚園年長の園児たちがロウソクでクリスマスツリーに明かりを灯しました。(右)式後、チャペルの外でお菓子が配られました。

その他のプログラム

- 聖学院小学校 ハンドベルクラブ演奏
- 讃美歌(いざうたえ/きよしこのよる)
- 聖学院小学校 聖歌隊合唱
- 聖学院小学校 児童宗教委員聖書朗読
(ルカによる福音書1章26~38節)
- 聖学院小学校PTA コールシャロン合唱
- 聖学院小学校教員 賛美(屋外)



和田 直樹

活躍ファイル *No.03

聖学院中学校・高等学校2015年卒業(108回生)
聖学院大学 政治経済学部 4年



田中 涼子

活躍ファイル *No.04

聖学院大学人間福祉学部2005年卒業
社会福祉法人皆の郷 第2川越いもの子作業所 生活支援員

鉄道が好き！造形が好き！ 人に楽しんでもらうのが好き！

在校生の活躍

駅弁や駅ナカの飲食店、新幹線の車内販売など、フードサービスを提供する事業を行っている企業に内定している和田さん。聖学院中高の出身で高校時代は「旅と鉄道部」で大活躍しました。鉄道研究会のなかった大学では「模型同好会」を立ち上げてヴェリタス祭（大学祭）などで鉄道模型を展示しました。そして卒業後は鉄道関連の企業で働きたいと考えて就活をしました。何とも徹底した鉄道大好き人生ですが、鉄道に魅せられたきっかけは、幼少の頃の、電車を見てワクワクした祖母との散歩だということです。旅鉄時代の一番の思い出は、東京都北区とコラボした『北区鉄道Viewマップ』の制作。「今までで一番充実した時間を過ごしました。」とにこり。鉄道ジオラマはテレビの番組で取り上げてもらったこともあったそうです。大学では模型同好会の他に学友会総務委員会、卒業関連事業準備委員会、放送部に所属して活躍。総務委員会では委員長も務め、後輩たちから“ダーワーセンセイ”と任を降りた今も慕われています。どの活動も「面白そうだからやってみよう」という好奇心と行動力からスタートしていますが、自分が楽しむだけではなく、模型やジオラマ、ラジオ番組やスライドショーなど、自分がつくったものを通してみんなに楽しんでもらいたいという想いが原動力なのだ和田さんは語ります。社会に出てからも和田さんの好奇心がきっとたくさんの人たちを喜ばせてくれるでしょう。

諦めないで、続けたことが 今につながっています

卒業生の活躍

毎月一度、聖学院大学で煎餅やうどんを販売している団体があります。それが第2川越いもの子作業所の方々なのですが、このうどんが大好きで毎月心待ちにしている職員もいるほどです。そして聖学院大学人間福祉学科の卒業生である田中涼子さんはこの第2川越いもの子作業所で生活支援員として勤務しています。「世界は誰かの仕事でできている」という缶コーヒーのCMがありますが、人は働いて、誰かの役に立つことを認識して、生きていくモチベーションを得ています。障害を持った方もそれは同じなのだ取材をさせていただいて強く思いました。施設で働くことはたいへんなことですが、それだけよここびも多いです。車椅子の利用者さん、「Hさんが編集長となってこの新聞（いもの子新聞）をつくっているんです。」と得意気に自分のことのように語る田中さんの笑顔が印象的でした。田中さんは在学中、現在のボランティア活動支援センターの前身であるボランティア部会で活躍していました。2年生の時に多くのメンバーが卒業してしまい存続の危機に立たされます。しかし田中さんを含む残ったメンバーは続ける決意を固め、イベントや募集活動に工夫を重ねて盛り上げ、卒業する頃には、当初10名程しか集客力のなかったボランティア部会主催のボランティア合同説明会に100名を超える参加者を呼べるほどになっていました。部会のメンバーも20名を超え、その中には政治経済学科や欧米文化学科所属の学生もいて多様性が生まれ好循環につながっていました。そうした田中さん籍在時の苦勞の甲斐があり、ボランティア部会の意思を継ぐ聖学院大学ボランティア活動支援センターは2018年11月、厚生労働大臣のボランティア功労者表彰を受賞しました。

まだまだあります!

Seig NEWS

学生も生徒も教員も職員も
次のステップへと
日々新しい試みをしています。

聖学院大学



今年も釜石訪問ボランティア サンタプロジェクトを実施

11月30日(金)～12月2日(日)の2泊3日、岩手県釜石市において今年で8年目となる『サンタプロジェクト』を実施しました。このプロジェクトは2011年東日本大震災の後、被災地への支援がスタートし、クリスマスの喜びを共に分かち合うことをテーマに始められたボランティア活動です。当初から釜石市鶴住居地区を訪れ、仮設住宅の訪問や子どもたちとのクリスマス会を行ってきましたが、今年で8回目となるプロジェクトはこれまでの活動を更に充実させ、郷土料理と一緒に作りながら交流を深める時間や、地元の高校生と一緒にトークセッションを行うプログラムも開催。多くのことを学ばせていただくスタディツアーとなりました。



聖学院大学



ボランティア活動支援センターが 厚生労働大臣表彰を受賞

ボランティア功労者(団体)に対する厚生労働大臣表彰を聖学院大学ボランティア活動支援センターが受賞しました。2018年11月22日(木)、東京港区で授賞式が開催され本学からは平副学長が参加しました。学生のボランティア活動の支援を目的としたボランティア部会(学生団体)が発足されてから約20年。ボランティア部会の意思はボランティア活動支援センターに引き継がれています。社会に開かれた大学として活動を続けてきたことが評価されたことは今後の活動の励みになります。



聖学院大学大学院



人間福祉学研究科は 心理福祉学研究科に 名称変更します

聖学院大学では2018年4月に人間福祉学部を改組して心理福祉学部を設置しましたが、これに対応して、大学院人間福祉学研究科の名称を2019年4月より心理福祉学研究科に変更します。6時限目、7時限目と土曜日を中心に履修し、働きながら学ぶことができる聖学院大学大学院。人間福祉学研究科の院生の多くは福祉や医療の現場で働きながら学んでいます。少人数で丁寧な指導が特色で、定評ともなっていますが、名称変更を機に学部との連携を一層強め、資格の取得も視野に入れています。心理や福祉分野の学びを深めるために学部から大学院進学を目指す学生が増えることを期待しています。

聖学院中学校・高等学校

PBL※集大成としての記念祭

11月2日(金)・3日(土・祝)に112回目となる記念祭を開催しました。今年の記念祭テーマは「結(ゆい)ー今までにないものをー」で、生徒同士が繋がり合い、結び合わされて「新しいものを生み出す」ことを目指しました。聖学院中高の記念祭はただ楽しいだけでなく、一つひとつの展示や発表がPBL※の考え方を取り入れており、文化発信の拠点の場として位置づけています。

※Project Based Learningの略、自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法のこと



聖学院中学校・高等学校



高I現代文「新書でビブリオバトル」開催

10月30日(火)に、高校1年生「現代文」の授業の中で「新書でビブリオバトル」を開催しました。現代文では事前学習として夏休休暇期間中に「新書」カテゴリの中から10冊の読書をし、そのうちの1冊について小論文を書き、グループで選ばれた5名が「ビブリオバトル」という形で発表します。新書を設定することにより、現代の社会が抱えている諸問題を他人事ではなく我が事に引き寄せて考えます。また、プレゼン力以上に他者の意見を「聞く」力を養い、ダイバーシティ社会の中で生きる力を育みます。

女子聖学院中学校・高等学校



手作りのおむつを寄贈する 全校ボランティア

11月16日(金)に高校ボランティアを実施。毎年、この日は高校生徒全員でおむつ作りをしています。さらしを輪にしておむつをひとり一枚、手で縫います。この活動は宗教委員によって行われている40年以上も続く学校行事で、おむつは秋津にある「白十字ホーム」に贈られます。生徒の作ったおむつは「白いダイヤ」と呼ばれ、たいへん喜ばれています。写真は宗教委員が全員縫ったおむつに針などが残っていないか金属探知機を使って針検査をしているところです。



女子聖学院中学校・高等学校



進路×同窓会を開催

10月13日(土)放課後、『進路×同窓会』プロジェクトが開催されました。高58回～70回までの卒業生25名と中3～高IIまで80名の在校生が参加し、先輩方より大学のことから仕事のことまで様々な進路の話聞くことができました。このイベントは昨年夏にNPOカタリバがGoogle Japan本社において実施した、オリジナルのプロジェクトをプレゼンする企画に高II生徒2名が参加したことが発端となっています。プレゼンが高評価を得たためメンバーを募集し、約20名の仲間とともに実現することができました。



聖学院小学校



校内作品展を開催しました

10月23日(火)～26日(金)の期間、児童たちの図工作品を展示する校内作品展を開催しました。絵画やデザイン、立体作品、スタンドグラスや埴輪など、さまざまなテーマでの個性豊かな作品が多数展示されました。児童たちの感性豊かなその作品たちはもちろん素晴らしい、加えて展示方法にも工夫がなされていて、児童の保護者をはじめとする来場者の目を楽しませていました。



聖学院小学校



練習の成果を発揮、音楽会を開催

11月16日(金)・17日(土) 聖学院中高の講堂にて、聖学院小学校の音楽会が行われ、元気な歌声や合奏が講堂いっぱい響き渡りました。伴奏や指揮、司会進行などすべて児童が行いました。初めての1年生から今年最後の6年生まで一生懸命に発表しました。練習の成果を十分に発揮し、素晴らしい音楽会となりました。

聖学院幼稚園



収穫感謝礼拝が行われました

11月15日(木) 神様からいただいている恵みに感謝し、沢山の秋の実りを前に収穫感謝礼拝を守りました。お昼には会食の時を持ちました。皆で持ち寄った材料を年長組が下準備。メニューは豚汁とおにぎりです。野菜の皮をむき、こんにゃくをちぎり、園児たちは様々な作業にチャレンジしました。ホールに集まり、3学年の縦割りグループに分かれて美味しくいただきました。神様に感謝し、皆で一緒に食べた豚汁はとても美味しかったです。



聖学院みどり幼稚園



焼き芋会

11月27日(火)に、みどり幼稚園の広いお庭で「焼き芋会」を行いました。さつまいもは11月上旬に自分たちで収穫したもので、園児は使う落ち葉を山ほど集め、焼いている様子を楽しみに眺めていました。焼きあがったお芋は食べやすい大きさに切り分けられ、一人ひとりの小さな手のひらに渡されます。できたてのお芋の熱さに驚きながらも「熱いけど美味しい」と口にはおぼる園児たち。笑顔いっぱいに収穫を感謝するひとときとなりました。



Our Mission



（大学キャンパス）
聖学院キリスト教センター事務室

キリスト教センターは「神を仰ぎ 人に仕う」という建学の精神を具現化し発信する部署で、チャプレンと共にキリスト教教育に関するサポートを行っています。具体的には入学式・卒業式などの式典や、全学・全校礼拝、キャンパスにおけるキリスト教的指導などのキリスト教に関わる事項を扱っています。また、教会（教会学校）と聖学院との懇談会など地域との連携もとっています。学生とも関わる事が多く、キリスト教行事に奉仕する学生団体の相談を受けたり、復興支援ボランティアチームにもその意義を話したり、学生が企画するリトリート（修養会）の運営サポートを行います。キャリアサポートも含め、学生とのつながりが強い部署なので、卒業生がよく訪問してきます。また、事務室は上尾キャンパスにありますが、駒込キャンパスを含めた法人全体のセンターです。

クリスチャン教職員の比率が減少傾向にある中で、建学の精神を大切に、キリストの教えに拠って立つ学院としての在り方が問われていると考えています。そのような背景の中、聖書に関する質問を職員から受けたときは嬉しいです。また心が揺れ動く一番大切な時期に学生が礼拝に来てくれたり、受洗の報告を受けた時には、キリスト教センターの存在意義を強く感じます。

今、大学チャペルにパイプオルガンを設置する委員会が動いています。実現したら埼玉のミッション・スクールとしては唯一のものになりますし、文化的にも埼玉の教会的にも核になると思います。パイプオルガンの生の音に触れて演奏者を目指す学生が現れたり、オルガンを契機に地域の方にキリスト教の精神が芽生えたら、それは素晴らしいことですね。

Our Mission

- 1. キリスト教精神の継承**
未来へ受け継いでいくこと
- 2. キリスト教精神の涵養**
キリスト教の教えに触れて、自分もそうありたいと思った時に養われるもの
- 3. キリスト教精神の伝達（伝道）**
広めていくこと



●STAFF

浅見幸枝・久保哲哉
今村優子・矢倉弦樹・齋藤祥子

●オフィス

大学チャペル1F
聖学院中学校・高等学校宗教センター
女子聖学院中学校・高等学校職員室

聖学院歴史探訪

#3 聖学院をつくった人々 最初の宣教師③ -ガイ-



ガイ博士は、1870年にアメリカ合衆国のカンザス州に生まれ、ガーフィールド大学で2年間学んだ後ドレーク大学に進み、1893年に卒業しました。同年秋、ディサイプルス派の宣教師として来日したガイ博士は、1903年2月に、本郷基督教会のなかに聖学院神学校を開設しました。それは、日本伝道のためには、日本人の伝道者を養成することが必要だと考えたからです。これが聖学院の始まりです。このとき、資金面でガイ博士を支えたのは、ガイ博士の母校ドレーク大学の創立者で、元アイオワ州知事であったフランシス・ドレーク將軍でした。またこのとき、ガイ博士に協力した日本人が、のちに聖学院中学校の校長となった石川角次郎先生でした。

しかし、ガイ博士は、婦人の健康上の問題で日本での働きを中断し、1907年8月、アメリカに帰ることになりました。それは、ガイ博士が37歳のときのことでした。ガイ博士が聖学院神学校や中学校で教えたのはきわめて短い期間で、聖学院中学校では開校から1年しかいませんでした。しかし、のちのち聖学院の創設者の一人として語りつがれるほどに、ガイ博士の貢献にはたいへん大きいものがありました。

出典:聖学院・女子聖学院中学校高等学校 聖書科教科書編集委員会編『神を仰ぎ人に仕うー召命に生きた人々ー』改訂版、聖学院大学出版会、2014年（出典より一部変更）



学校法人 聖学院

理事長/清水 正之 院長/山口 博

〒114-8574 東京都北区中里3-1 2-2 Tel 03-3917-8351
ホームページ <http://www.seig.ac.jp> E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

■さいたま上尾キャンパス

聖学院大学

・政治経済学部/政治経済学科 ・人文学部/欧米文化学科 日本文化学科 児童学科 ・心理福祉学部/心理福祉学科
学長/清水 正之 創立/1988年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-781-0925

聖学院大学大学院

政治政策学研究所/アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所/人間福祉学研究所
創立/1996年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-780-1801

聖学院みどり幼稚園

園長/山川 秀人 創立/1978年
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820 Tel 048-622-3864

■駒込キャンパス

聖学院 中学校 高等学校

校長/角田 秀明 創立/1906年
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1 Tel 03-3917-1121

女子聖学院 中学校 高等学校

校長/山口 博 創立/1905年
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-2277

聖学院小学校

校長/佐藤 慎 創立/1960年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-1 Tel 03-3917-1555

聖学院幼稚園

園長/佐藤 慎 創立/1912年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-2 Tel 03-3917-2725

●インターネットでの寄付のお申し込みについて

クレジットカード(VISA、MasterCard)をお持ちの方は、お申し込みから入金までご自宅等で、PC、スマートフォン、携帯電話からインターネットによるお手続きができます。下記URL、QRコードにアクセス下さい。

<https://www.seig-asf.jp/fund/>



住所変更・お問い合わせは下記までお願いします。

学校法人聖学院ASF事務局 Tel 03-3917-8352